

日本労働年鑑 第51集 1981年版  
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XIV 政党

4 公明党

1 概況

「連合政権」のかなめ党

六九年十一月、公明党は結党一五周年を迎えた。七六年総選挙、七七年参院選、七九年総選挙と七〇年代後半の国政選挙で野党第二党の地位を確立した公明党は、民社党との提携を軸に中道勢力の結集につとめ、また労働組合との結びつきを強めた。さらに、七九年総選挙後には、新たに社会党が「社公中軸路線」にふみ切り、公明党との間で共産党を排除した「連合政権」構想で合意するにいたった。同時に、公明党は民社党とのあいだでも「中道連合政権」構想をまとめ、かねてからの目標である「社公民路線」の成立にむけ一歩前進した。つぎに当面の目標となったのは八〇年参院選での与野党逆転であった。公明党は「連合政権を推進するかなめの党」をキャッチフレーズに社会、民社、社民連との提携を強化し、かつてない選挙協力を組んで「与野党逆転」を達成し、「連合政権」の実現をめざした。しかし衆参両院同時選挙において公明党は敗北した。参議院では一議席の減とほぼ現状を維持したが、衆議院では二四議席減の三四議席(推薦一をふくむ)と大きく後退したのである。しかも自民党は衆参両院で圧勝し、「連合時代」は遠のいた。

役員

公明党の役員の任期は二年である。現在の役員は七九年一月の第一六回大会で選出されたもの、また各局長は同大会直後の中央執行委員会で決定されたものである。

▽中央執行委員長 竹入義勝、▽中央執行副委員長 二宮文造、浅井美幸、多田省吾、▽書記長 矢野絢也、▽副書記長 石田幸四郎、鈴木一弘、田代富士男、渡部一郎、▽総務局長 長田武士、▽組織局長 田代富士男、▽議会議長 鈴木一弘、▽宣伝局長 矢追秀彦、▽広報局長 坂井弘一、▽機関紙局長 市川雄一、▽青年局長 大久保直彦、▽婦人局長 \*柏原ヤス、▽国際局長 黒柳明、▽労働局長 三木忠雄、▽文化局長 多田省吾、▽教育局長 浅井美幸、▽中小企業局長 \*松本忠助、▽農林水産局長 \*瀬野栄次郎、▽国民生活局長 \*渡部通子、▽政策審議会長 正木良明、▽財務委員長 \*山田太郎、▽国会対策委員長 大久保直彦、▽選挙対策委員長 大野潔、▽選挙対策事務局長 大川清幸、▽国民運動本部長 石田幸四郎、▽公害対策本部長 \*小平芳平、▽中央執行委員 笠間肆、寺島秀幸、伏木和堆、藤井富雄、藤原行正、二見申明(以上中央委員。\*印は非中執)

▽中央統制委員長 小泉隆、▽副委員長 龍年光、▽委員 白木義一郎、星野義雄、宮崎正義  
▽会計監査委員 沖本泰幸、藤原房堆、松尾正吉

---

■←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】次のページ→■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---